

さあ、Scienceの帆を上げよう！！ は生徒から応募のあったキャッチコピーです。本校校歌にある「徳の帆を上げ知恵の舵」に由来するものです。

「SSH2年目へ」 学校長 米澤 修一

昨年の4月7日にSSHの指定が決定したという吉報をいただいてから、あっという間に1年が経過した。事前に計画した諸事業を実行するために、多くの方々のご支援ご協力をいただきながら、職員一同、一丸となって取り組んだ初年度であった。県教委の先生方、池川信夫先生を委員長としたSSH運営指導委員会の皆様、大学の先生方、森の家等のNPOや関係機関の皆様、地元小中学校の校長先生はじめ先生方、等、多くの皆様のお力添えをいただいて、まさに走りながらの1年であった。これまで実施しようと思ってもできなかったことが予算の裏づけのもと可能になるとともに、実験器具や計測器、パネル、等必要なものを整えることも進んだ。

SSHを Science (科学)、Society (社会)、Humanity (人間)とも捉え、社会にとっての科学、人間にとっての科学、の基本に立った「大きな知」の生徒を育てたいとの思いは変わらない。生徒からはSSHの標語を募集し、校歌の一節から「さあ、サイエンスの帆を上げよう」が誕生して、多くの機会に使っている。SSHの事業を推進する中で、生徒たちの理系志望者が増えたこと、SSH枠の大学への進学が実現できたこと、教科横断授業週間を設定しグローバル・ローカルの双方向の関連や相互依存関係を全教科で行えたこと、大学等諸機関との連携で課題研究のテーマ設定や研究の深まりに好影響があったこと、自然観察フィールドワークで1年生全員を事業対象とし

て実施できたこと、地元教材としての「スキークラックス」「雪」「きのこ」こと、などが課題研究のテーマとして、動き始めたこと、既に始まっている地元小中学校との算数数学・英語の連携がSSH事業の地元還元ルートとして機能することが実感できたこと、「はやぶさ」帰還のようなタイムリーな科学も全校講演という形で学ぶことができたこと、サイエンス・ツアーや星の教室を充実することができたこと、理科と英語の教員のITが実現できたこと、一般公開の形で活発な質疑が行われた課題研究発表会、全国発表会への参加、などが1年目の成果であろうか。2年目の今年も、上記事業に加えて、SSH Festivalのようなものが開催できそうであるし、10月にはJSTの北澤宏一理事長先生の全校講演を計画している。また、国際的な視野に立ったコミュニケーション能力育成も目指して海外研修を計画しているし、課題研究の要約を英語で書き発表することなども計画している。来年度から、理数科が自然科学探究科と人文科学探究科の2つの探究科に学科転換されてスタートする。SSHがその力強い支えとして機能し、探究心旺盛な中学生が探究科第1期生として入学してくれることを期待したい。



EUがあなたの学校にやってくる（全校生徒共通）

5月10日(火)の6時間目に、SS1、SS2、SS3の共通企画として講演会「EUがあなたの学校にやってくる」が、全校生徒を対象に開催されました。5月9日の「ヨーロッパデー」を記念して、駐日欧州連合(EU)代表部が、加盟国の駐日外交官を派遣する企画で、本校にはドイツ大使館参事官、ウルリヒ・ファスベンダーさん(農学博士)が通訳岩村偉史さんとともに来校されました。

ウルリヒさんは、加盟27カ国に及ぶEUの面積、人口、使用言語などから始めて、その形成過程や、統合の歴史的背景について、丁寧に解説して下さいました。お話は日本とEUとの交流や京都議定書などの環境問題にも及び、双方のグローバルな協力関係の重要性を指摘されました。生徒諸君は、全校生徒分用意されたクリップボードを使ってメモを取りながら、集中して聞いていました。また、加盟国間のパスポートチェックの廃止などに驚きつつ、チームワークの重要性なども学びました。日独交流150周年になる今年にドイツから来られたウルリヒさんの誠実な話は、国際理解や科学の学習の重要性を改めて認識する機会となりました。



講師のウルリヒ・ファスベンダー先生(右)、通訳の岩村偉史先生(左)



左:「大きな知を探究する学習者を育てたい」と講演開催の目的を話される米澤修一学校長 / 中講演会の様子 / 右生徒によるドイツ語での御礼と花束贈呈

～生徒たちの感想～

- ・欧州の長所を日本がとりいれていくべきだと感じた。
- ・EUと日本は文化も言葉も違うけど、お互いの国のことをもっと知って交流したりして協力していけたらいいなと思いました。
- ・3月の震災なども含めて、日本が世界と交流を深めることは、これからの日本にとってとても重要なことだと思った。
- ・第二次世界大戦の反省を活かして、EUが作られたというのが印象に残った。反省したことを実際に行動に移しているのはいいことだと思う。

今年度は以下のように、SSH活動を行って参ります。よろしくお願ひいたします。

平成 23 年度 長野県 飯山北高等学校 SSH 活動内容

SSH委員会
2011.5.16

SS1		SS2		SS3		全体	
1年普通科		1年理数科		2年理数科		3年理数科	
SS1ガイダンス		SS1ガイダンス		SS2 ガイダンス		SS3 ガイダンス ポスター発表準備	
4月				課題研究 担当の先生との相談			
5月	自然観察フィールドワーク事前学習 フィールドワーク事前講習会(5月30日) 信州大学准教授 井田秀行氏	自然観察フィールドワーク事前学習 フィールドワーク事前講習会(5月30日) 信州大学准教授 井田秀行氏		テーマ設定 分野別ゼミ		PTA総会にて課題研究発表(5/21)	自然科学部 土星観望会 講演会(EUがあなたの学校にやってくる)
6月	自然観察フィールドワーク 1・2組 6月27日(月)	自然観察フィールドワーク 3・4組 6月30日(木)		先行研究調査 仮説の立案 文化祭に向けての準備		長野県学生科学賞への出展準備 各種科学コンテスト出展準備	
7月	自然観察フィールドワーク事後学習	自然観察フィールドワーク事後学習		文化祭にて課題研究取組紹介		文化祭 ポスター展 大学研究室訪問	運営指導委員会(7/20) 自然科学部 研究成果発表
8月				信州サイエンステクノロジーコンテスト(諏訪東京理科大学8/7) 全国SSH生徒研究発表会(神戸 8/8~8/10) 2年生次年度下見(2012年飯北発表)		SSH生徒研究発表会(8/8~8/10) ポスター展(口頭発表?)	
9月	サイエンスツアー事前学習 日本科学未来館 大学・企業 体験実習	サイエンスツアー事前学習 日本科学未来館 大学・企業 体験実習		課題研究中間発表会 東京大学木曾観測所天文台実習(9/15~9/16)		長野県学生科学賞出展 高校化学グラウンドコンテスト出展	
10月	サイエンスツアー(11/10~11/11)	サイエンスツアー(11/9~11/11)		出前実験 実験・データ収集等		課題研究要旨英訳 課題研究英文要約レポート作成	SSH講演会 (北澤 宏一氏 10/14)
11月	サイエンスツアー事後学習	サイエンスツアー事後学習		課題研究収録のまとめ		科学論文購読	
12月	サイエンスツアー報告会	サイエンスツアー報告会 科学未来館の講師による科学プレゼンテーション		課題研究合同研修会(信州大学理学部 12/17)			
1月				課題研究まとめ 研究集録原稿完成			
2月				課題研究PPガイダンス			
3月				課題研究PP作成・発表準備			運営指導委員会(2/)
4月				SSH校口頭発表会(歴代・清陵・飯山北 信州大学理学部 3/17) 課題研究発表会(市民会館 3/22)			研究開発実施報告諸完成
5月	教科横断授業 英語・理科TT授業	教科横断授業 英語・理科TT授業・科学プレゼンテーション 基礎ゼミ(出前実験等) 大学・企業等研究訪問		出前実験・出向実験 成果等伝達(小・中学校や高等学校へ)			サイエンス(SSH)フェスティバル 成果伝達(小・中学校へ)

自然観察フィールドワーク事前講習会(1年生対象SS1)

5月30日(月) LHR、自然観察フィールドワークを1ヶ月後に控え、昨年に引き続き、信州大学教育学部の井田秀行准教授を招いての事前講習会が行われ、1学年生徒が参加しました。飯山の自然の特徴、フィールドである鍋倉山を特色づけるブナについての知識など自然科学的な話題から、この地域の人々がどのように森と関わりを持って暮らしてきたかという人文科学的な話題まで、幅広い分野から“飯山市の裏山”を語って頂きました。知っているようで知らない身近な環境に目を向けることが、自然を保全する第一歩であることを学びました。



左:信大教育学部・井田先生



右:講習会の様子

~生徒たちの感想~

- ・森に人間が一度手を加えたら、責任を持って活用していかなければならない。森の木々や環境は人間だけのものではなく、いろいろな生き物に関わっているから影響が及ぶということも分かった。
- ・ブナは毎年同じ量の実をつけない。ブナも動物と一緒に暮らしていける方法を知っているんだと思った。ブナを知るだけ飯山はおもしろい。
- ・伐っても殺さない方法(萌芽)に興味があった。
- ・雪国の人は建築に向かないブナを使うなどの工夫をされていてすごい。飯山の良さを再発見!フィールドワークでしっかりと見てきたい。
- ・専門家や政治家の考えを鵜呑みにせず、自分で足を運び、観察し、考えることが大切。=フィールドワークということ。
- ・実際にブナやドングリを見て疑問を探したい。楽しみです。

ご意見・ご要望はこちらへ・・・

〒389-2253 長野県飯山市大字飯山 2610 番地
TEL 0269(62)4175 FAX 0269(81)1072
URL <http://www.nagano-c.ed.jp/iikita/>
E-mail iikita@nagano-c.ed.jp